

三重県経営者協会 創立の原点

経営者協会の誕生

わが国の労働民主化のため、昭和21年3月から労働組合法が施行された。国においてはGHQの指導により、極力労働者の保護育成に努力したため、全国的に労働組合結成の機運が昂まった。わが三重県においても、いち早く労働組合が結成され、果敢な闘争が所々に起こった。

そして全国的に急速に労働組合の結成がなされ、各所に尖鋭な労働争議が発生し、これに対する経営者側は、総じて企業経営の自信と目標を失い、無力化の状態となり、一步誤れば国の運命を左右する事態に直面し、わが本県も決して例外ではなかった。

当面する労働問題は、ますます複雑多難となり、経営者も共通の問題を討議したり、経営上の経験を交流したり、労働関係法規を研究して、実際問題の解決に協力支援する経営者団体を組織する必要性が痛感されるようになった。

このような客観情勢に対処するため、昭和21年7月25日に三重県工業協会が発足したのである。この協会の名称は労働攻勢の激しい当時の情勢下にあって、労働者側に無用の刺激を与えないようにとの、配慮からでもあったようである。

本会の生みの親は当時の三重県商工経済会であり、今日の商工会議所である。ここでの具体的な計画の下に津市の立誠国民学校において、産声をあげたのである。

当時の創立趣意書は次の如くである。

創立趣意書

今や我が国は国民活動の全分野に亘って、民主化を基調とする未曾有の転換期に際し、百般の諸事業は混沌たる過渡的状态を呈しているが、然し何と云っても新生日本の建設のためには、その基幹たる産業の興隆が最も喫緊の要務である。

翻って産業経営の現状は、原料資材等極度の逼迫に依って、生産低下の実情であるに加えて幾多の勤労問題を包容し其の将来は、極めて多岐多繁なことが予想されるのである。

けれども今こそ産業界は、一意生産の熱意に燃え、相互啓発連繋に依って、経営内容の質的向上と生産の増強を図り、以って急速に産業の再建を果たさねばならぬ秋である。

茲に同志相寄り本会を創設して、産業の民主化と合理化を基調としつつ、別記会則所載の事業を活発に遂行し、我が国産業の再建と興隆に寄与せんとするものである。